

## 米国 再び50台を回復し一本調子でのモメンタム低下は回避 (06年12月 I S M製造業景気指数)

発表日：2007年1月3日(水)

～新規受注・在庫比率も再び上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部  
桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### I S M (the Institute for Supply Management) の推移

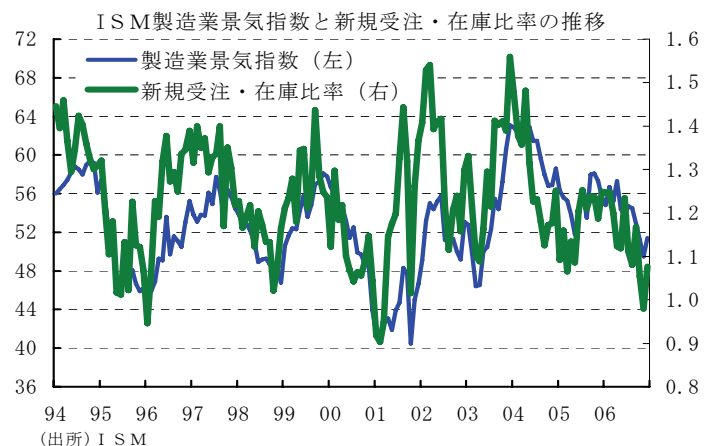
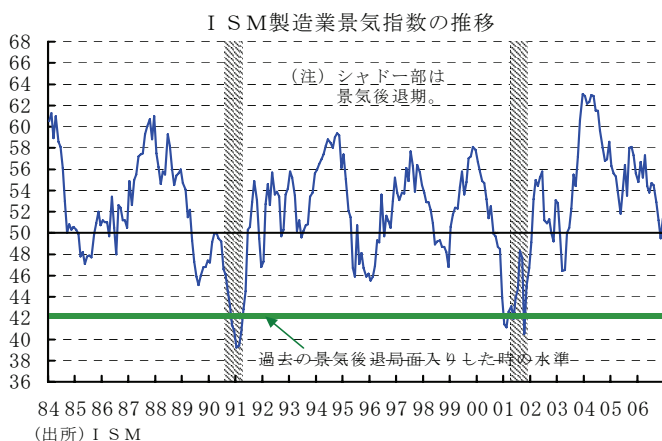
	総合	生産	雇用	在庫	入荷遅延	新規受注	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
06/01	54.8	56.6	51.3	46.5	55.3	58.0	53.5	65.0	58.5	57.0
06/02	56.7	57.4	55.0	49.6	52.2	61.9	54.5	62.5	57.0	57.5
06/03	55.2	57.5	52.5	48.7	53.1	58.4	59.5	66.5	57.3	57.0
06/04	57.3	60.4	55.8	51.3	57.7	57.6	57.0	71.5	53.4	59.0
06/05	54.4	57.2	52.9	48.0	57.6	53.7	53.0	77.0	55.7	56.5
06/06	53.8	55.1	48.7	46.9	55.0	57.9	54.0	76.5	55.4	56.5
06/07	54.7	57.6	50.7	50.5	55.4	56.1	50.5	78.5	51.9	57.5
06/08	54.5	56.6	54.0	50.2	55.0	54.2	51.5	73.0	55.7	54.0
06/09	52.9	56.1	49.4	46.4	54.1	54.2	46.5	61.0	55.3	56.0
06/10	51.2	51.9	50.8	49.4	50.2	52.1	44.5	47.0	57.8	57.0
06/11	49.5	48.5	49.2	49.7	52.8	48.7	46.5	53.5	56.9	56.5
06/12	51.4	51.8	49.7	48.4	53.4	52.1	45.0	47.5	54.3	55.5

### 51.4 と前月比 1.9 ポイント上昇

06年12月の I S M製造業景気指数は、51.4と前月から1.9ポイント上昇し市場予想の50.0を上回った。再び拡大縮小の分岐点である50を上回り、一本調子での製造業のモメンタム低下は回避された。I S Mによると12月の51.4という水準は、実質GDPに換算すると+3.2%成長を示すものとしており、2006年10～12月期の緩やかな成長と整合的な動きとなっている。

指数を構成する5項目をみると、在庫が低下したものの、新規受注、生産、雇用入荷遅延が上昇した(詳細は後述)。また、拡大した業種数は20業種9中業種(前月8業種)と小幅増加した。

先行きについては、新規受注が増加し在庫が減少したため、I S M製造業景気指数に1、2ヵ月先行する新規受注・在庫比率が上昇しており、I S M製造業景気指数は1月に上昇する可能性がある。ただし、需要の鈍化、それに伴う在庫調整によって、製造業部門のモメンタムは2007年前半も停滞すると予想される。

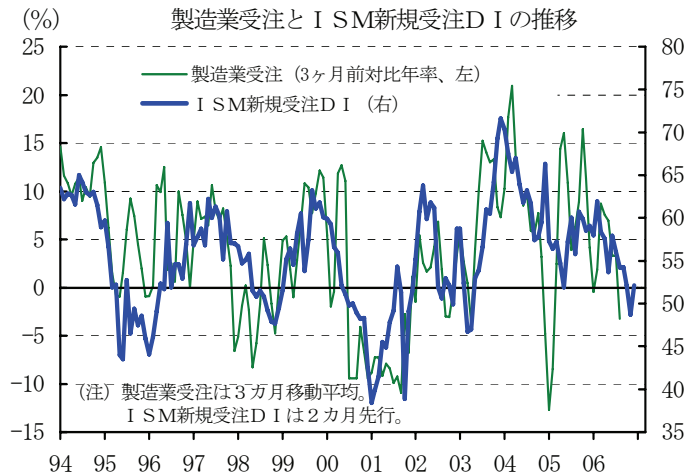
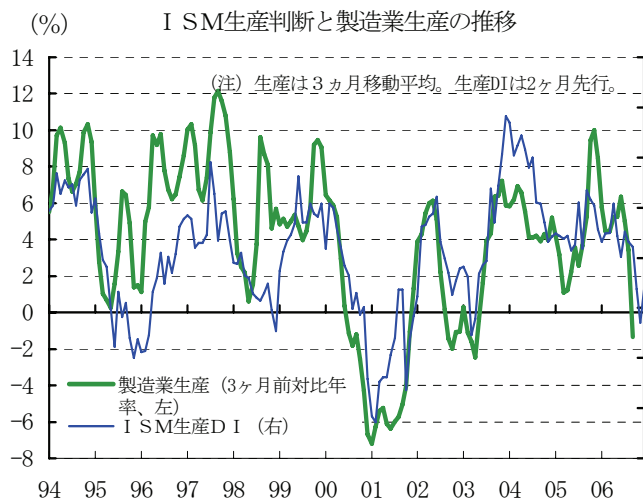


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**製造業受注・生産統計の一本調子での悪化は回避**

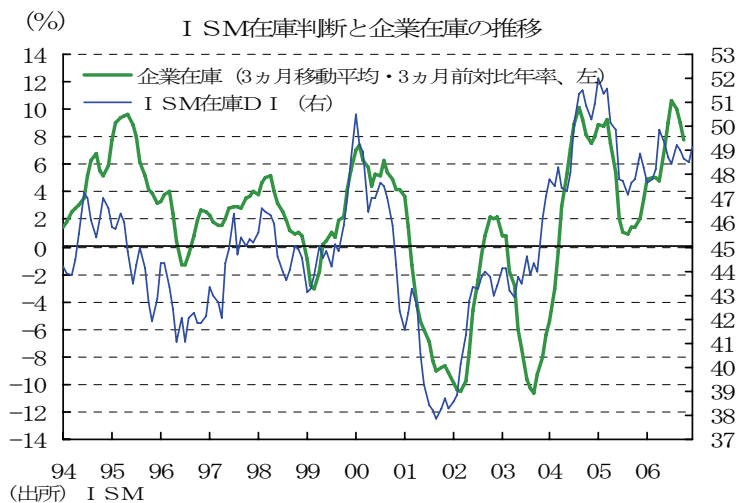
DIを個別にみると、生産指数の水準が昨年2月をピークに切り下がっていることから、製造業生産（FRB、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）は2007年1月にかけて拡大ペースが鈍化すると予想される。しかし、12月に生産の拡大した業種数が6業種（前月8業種）と減少するなかで、生産指数が前月から3.3ポイント上昇し再び50を上回ったことから、製造業生産の一本調子での低下は回避されるとみられる。

新規受注指数は昨年6月の57.9をピークに水準を切り下げているため、製造業受注（商務省、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）のモメンタム低下が続くとみられる。ただし、新規受注の拡大した業種数が10業種（前月5業種）と増加したうえ、新規受注指数が前月から3.4ポイント上昇し、再び拡大縮小の分岐点である50を上回ったことから、製造業受注が一本調子で減少する可能性は小さい。



**在庫調整は軽微なものにとどまる公算**

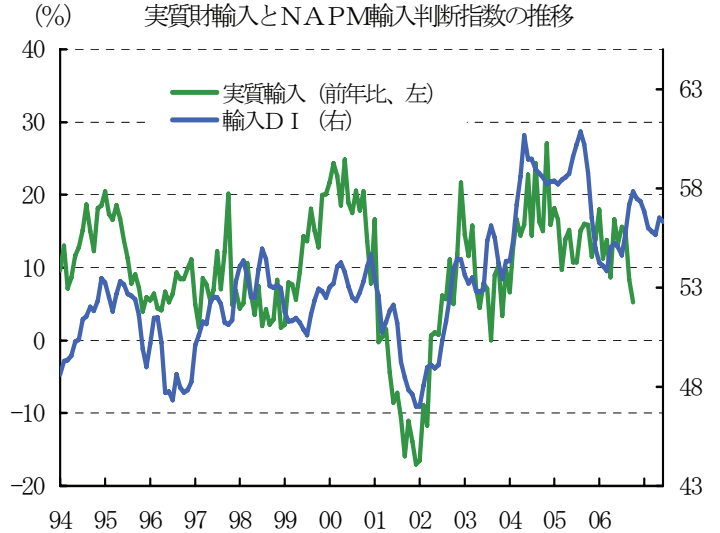
在庫面では、在庫指数が48.4と前月から1.3ポイント低下し、在庫を増やした業種数も20業種中6業種と前月から変化しなかった。新規受注と同時に在庫が増加する前向きな在庫の拡大が5業種（前月4業種）に増加した。それでも、その数は少なく製造業の在庫の積み増しに慎重な姿勢に変化はないと判断される。また、受注が増加するなかで、在庫の減少した業種数が5業種（前月1業種）に増加したうえ、新規受注が減少するもとで在庫が増加する、悪い在庫増となった業種は1業種（前月2業種）にとどまっていることから、現在の在庫調整が深刻なものになるリスクは小さい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**貿易赤字は高水準  
持続**

外需に関しては、輸出受注指数が54.3と前月の56.9から小幅低下したが水準が高いことに加えて、通関統計に3ヵ月先行する3ヵ月移動平均では9月をボトムに上昇していることから、輸出（通関ベース）は11月以降も高い伸びを維持する可能性がある。一方、輸入指数も55.5と前月の56.5から小幅低下したが高い水準を維持しており、通関ベースでの輸入の増加ペース加速を示唆している。このため、貿易赤字額は高水準で推移する可能性がある。

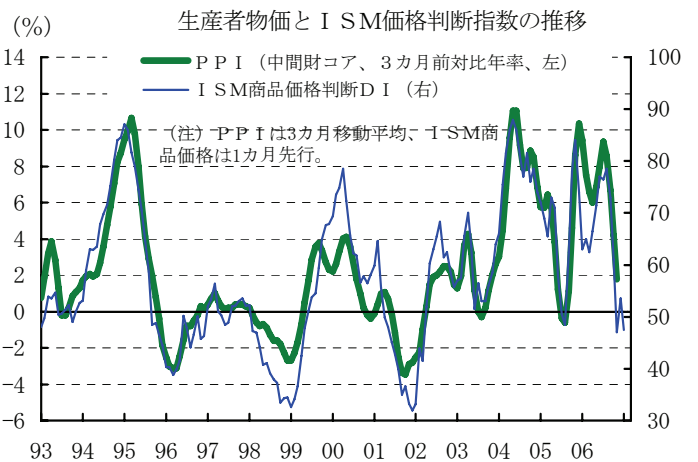
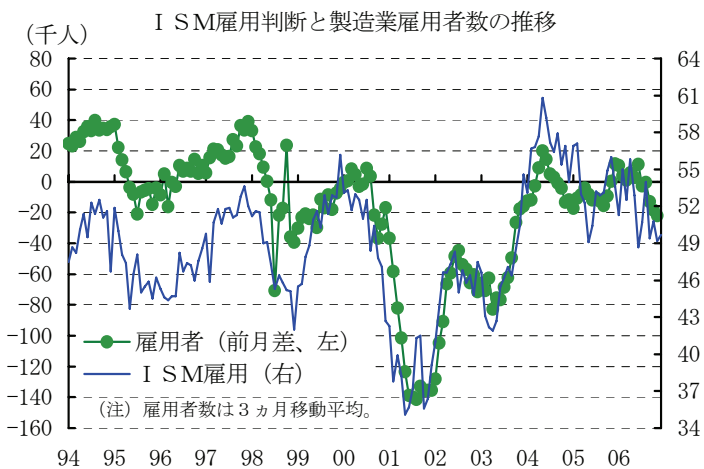


**製造業雇用は減少  
が続く公算**

雇用関連では、雇用の増加した業種数が7業種（6業種）と増加し、雇用指数が49.7（前月49.2）と上昇したものの水準が低く、製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は12月も減少すると見込まれる。

**目先川中での物価  
上昇圧力は一段と  
緩和する公算**

物価面では、商品価格指数（仕入れ価格）は47.5と再び50を下回ったことから、商品価格指数に遅れて動く傾向があるPPI（中間財コア）は3ヵ月前対比年率で1月にかけて鈍化する可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。